津波が全てをのみこみ、がれきだらけになったまちは当初、復興する姿を思い描くこともできなかった。あれから10年。道路や鉄路、防潮堤、かさ上げした住宅用地など、なりわいの基盤はほぼ整った。岩手県沿岸部の12市町村は新たな日常を刻んでいる。

from 3.11 あなたと、生きていく。

津波にのまれ一面がれきに覆われた大船渡市大船渡町の中心市街地。震災後、一帯は土地区画整理事業を導入してかさ上げした。ＪＲ大船渡線（ＢＲＴ運行）より海側は「キャッセン大船渡エリア」として本設の商業施設が集積。空き地も点在するが住居や商店が戻ってきた。対岸の岡市市崎町にそびえる太平洋セメント大船渡工場の大煙突は、いつも変わらぬ街の象徴だ。

▲2021年 大船渡 2011年◀

2011年3月11日午後4時19分

低地が広がる陸前高田市中心部は津波で壊滅状態となった。がれきの撤去にも膨大な時間を要した。気仙町の山＝写真奥＝を切り崩した土砂をベルトコンベヤーで高田町に運び、最大約12haの大規模なかさ上げ工事を実施。市街地では公共施設や商店、住宅の再建が進む。気仙川の河口には水門を新設。旧気仙中校舎＝写真右奥＝は震災遺構として残し、震災津波伝承館や道の駅が整備された。

▲2021年 陸前高田 2011年◀

2011年3月12日午前8時

宮古市の鍬ケ崎地区は住家など計1100戸以上が被災。整備中だった浄土ケ浜の観光遊覧船も打ち上げられた。津波対策として高さ10.4mの防潮堤を設置し、隣の光岸地区と合わせて24haの土地区画整理事業を実施。市魚市場や浄土ケ浜園地が近く、現状交通点の整備などで交通需要に対応した。地元事業者らが2020年11月から月１回ペースで鍬ケ崎元気市を開催している。

▲2021年 宮古 2011年◀

2011年3月13日午前10時

津波の後に大規模な火災に見舞われた山田町中心部。国道45号はがれきで埋まり救助を阻んだ。三陸鉄道陸中山田駅の周辺に商店や公共施設を集約したコンパクトなまちづくりを推進し、大規模な災害公営住宅も建設。山田漁港と市街地の間には高さ9.7mの防潮堤が整備され、土地区画整理事業が導入された45号周辺の産業用地の活用を探る。〈被災直後は北から南、現在は南から北を撮影〉

▲2021年 山田 2011年◀

2011年3月13日午前7時10分

津波で甚大な被害を受けた釜石市鵜住居町。「釜石の出来事」と呼ばれる避難行動で児童生徒が命を守った一方、鵜住居地区防災センターで大勢が犠牲になった。市は全壊した学校跡地に釜石鵜住居復興スタジアムを新設。2019年にラグビーワールドカップの１試合が行われた。駅前地区には追悼施設釜石祈りのパークや防災学習の拠点いのちをつなぐ未来館が整備され、教訓を発信している。

▲2021年 釜石 2011年◀

2011年3月13日

普代村は普代水門と太田名部防潮堤がせき止め、村中心部に津波は到達せず、住家被害はなかった。村内７漁港はそうはいかず、太田名部漁港は多くの漁船や漁具が流失し、魚市場や村漁協の加工場もひどく壊れた。総力を挙げてがれきを撤去し、１カ月後の４月11日には市場が再開した。現在は周さばき施設や定置網番屋などが立ち並び、活魚のつかみ取り大会などがにぎやかに開かれる。

▲2021年 普代 2011年◀

2011年3月13日午前10時25分

田野畑村島越地区では津波で漁港、集落が跡形もなく流された。ランドマーク的存在だった高欄風の三陸鉄道島越駅も流失。駅舎跡に整備された公園には名残の階段が残され、慰霊碑と津波の高さ17.9mを示す表示塔が教訓を伝えている。2014年７月に完成した新駅舎から望む鉄地には漁業用の倉庫や休憩施設などが並び、海岸では水門や防潮堤の工事が21年度内完成へ進められている。

▲2021年 田野畑 2011年◀

2011年3月29日

岩泉町小本の小本川水門を乗り越えた津波は約200戸を全半壊させ、河口から約４㌔先までさかのぼった。小本地区では三陸鉄道の駅や三陸道のインターチェンジを中心としたコンパクトなまちづくりが進められ、集団移転地や災害公営住宅、小・中学校やこども園、町役場支所などが入る小本津波防災センターが整備された。被災防潮林には１本だけ松が生き残り、住民に希望を掛けている。

▲2021年 岩泉 2011年◀

2011年3月11日午後3時半ごろ（岩泉町提供）

見つめる 古里の復興

大槌高生が180カ所定点撮影

町中心部の変遷を語り合う（左から）佐々木結菜さん、熊河江彩乃さん、松橋航士事務局長＝2021年2月、大槌町上町

大槌町の大槌高（瀬吉和彦校長、生徒146人）の生徒有志でつくる復興研究会は、活動の柱として町内5地区、計180カ所の定点観測を続けている。かつての街並みを思いながらシャッターを切り、大槌復興事業で日々変化してきた町並みの歩みを広く伝えていく。

「ここに歩道橋があって、ピアノ教室に通う時に使っていました」。2月末、3年の佐々木結菜さんは、同級生の熊河江彩乃さんと町方地区にある同町上町の撮影ポイントを訪れ、過去の写真と現在の景観を見比べた。

発災当初、大槌高生は学校に寝泊まりして、率先して避難所運営に携わった。復興事業の本格化と時を同じくして、2013年4月に復興研究会が立ち上がった。写真撮影は当時から顧問を務める松橋航士事務局長が発案し、神戸大の協力を得て始まった。

主に津波浸水区域を中心に年3回、撮影を続けた。発足当初、「震災当時の立ち入りができなくなった時も『復興のために活動したい』という熱意を知った」事業者が案内してくれた。道路や建物の目標物が撤去された時は、衛星利用測位システム（GPS）でポイントを教えてもらった。

活動を続けて8年がたつ。震災当時に就学前だった生徒は、当時の写真を見て初めて津波の被害や、復興事業の規模を意識するという。松橋事務局長は「生徒自身が震災と向き合い心を整理するこれまでの活動から、記憶の薄い生徒たちに伝承する段階に入った」と強調する。

現在の町方地区は「かさ上げされ、住宅や商店、公共施設が立地に appropriate 新田へ機能が移る。佐々木さんは「まちの移り変わりを記録できる喜びは大きかった」と振り返る。熊河江さんも「大勢の人が関わって復興したことを実感できた」とうなずき、後輩に思いを託す。

震災前の大槌町中心部

2013年4月　定点観測開始

14年9月　歩道や住宅の基礎が撤去されさら地が広がる

15年9月　土地区画整理事業による造成工事が本格化

16年5月　迂回（うかい）路が横切ったが奥に電柱が見える

16年9月　かさ上げされた土地に再び県道が舗装された

17年9月　造地された区画に住宅や商店が建ち始めた

18年9月　新たな街並みが整い生活感が感じられる

19年9月　景観に大きな変化はなく新たな日常が戻った

2011年3月11日午後2時36分

▲2021年 洋野 2011年◀

洋野町種市の種市漁港周辺では、海中でウニを養殖する増殖礁がはっきり見えるほど波が引いた。押し寄せた波は防波堤を越え、漁船や作業小屋を流し去った。ウニなどの種苗を提供してきた県栽培漁業協会種市事業所は全壊したが、2011年9月に仮復旧し採卵作業を再開。操業は12年に復旧が完了した。今は穏やかな海がもたらす恵みに感謝しつつ、町全体で防災訓練を毎年実施している。

2011年3月11日午後2時33分

▲2021年 久慈 2011年◀

津波にのまれた久慈市長内町の久慈港。市営魚市場は水没して漁船が打ち上げられ、同市夏井町の久慈国家石油備蓄基地も甚大な被害を受けた。復旧を急ぎ、2011年3月30日には魚市場で競りを再開。港湾施設と同基地は14年に復旧工事が完了した。総延長3.8キロの久慈港の湾口防波堤工事のため、全国には資材などが置かれ、ケーソン製作台船が接岸。28年度完成を目指す。

2011年3月13日午後2時15分

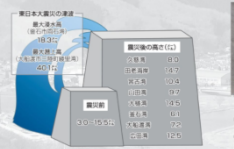
▲2021年 野田 2011年◀

津波により野田村中心部を通る三陸鉄道のレール数百mは、並走する国道45号を越え、枕木ごと流された。レールの敷設工事などが進み、2012年4月1日に陸中野田―田野畑間の運行が再開した。津波で線路が流された区間の復旧は初めてだった。周辺施設の復旧・復興も果たし、17年6月には国道45号沿いに十府ケ浦公園が開園。パークゴルフを楽しむ村民ら多くの利用客でにぎわう。

データで見る被災地の今

防潮堤の復旧

震災で山岸沿の防潮堤は大半が被害を受けた。復旧に当たり国は防潮堤の高さを数十年～百数十年に1回程度の津波に対しての防災を考えました。最大クラスの津波（L2）は防潮堤を越えることを想定し、避難などソフト対策を含めた「多重防御」の考え方も。県内では海岸を区域ごとに分け、過去の津波やシミュレーションを基に防潮堤の高さを決定。一部地域では東屋の高台整備と、住民合意を経てお盛土が組い高さになった。



津波襲来時、水門や扉からの閉鎖作業に当たった約28名中、殉職された二名を含む16人は自動閉鎖のシステム整備にも着手。リアカートなどを通じての更新、整備予定の14水門のうち12カ所で完了（3月末現在）。残りは高さ嵩上げの際に水門を設置する計画です。

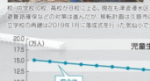
内閣府が2020年に公表した日本海溝・千島海溝地震による本県の津波想定は、震災で被災を受けた地域でも更なる対策が必要です。

震災後に整備された防潮堤が被害を受けた場合、その影響が内陸にどれだけ及ぶのか、県は2012年に津波浸水想定を見直しました。東日本大震災の津波を踏まえ、津波の発生が30年以内に高い確率で予想される宮城県沖地震（M7.5クラス）や、最大クラスの津波（L2）を想定。過去の津波痕跡などの調査から、17世紀以降で最も大きな津波は、1611年の慶長三陸地震（M8.1）と判断しました。

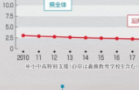
県内の津波浸水想定は、岩手県沿岸12市町村の全ての地区で設定されました。

学びやの復旧

大槌北小は校舎の約3分の2が浸かり3階建ての校舎は被災して使用不能に。校地が高台にあり、震災後も生徒が学校に通い続けた。



釜石東中は校舎が高台から遠く、現在も津波を教訓に防災教育を行うための施設として整備。2019年10月に完成式典が行われた。



三陸鉄道リアス線

東日本大震災以降に全区間復旧した三陸鉄道。浦志市通信の復旧を遅め、2014年4月5日の再ンスが始まった。全区間（北リアス線の全ルア線（久慈～宮古間）の全線運転開で、約107億円が投資された。

3年3カ月に渡る三陸鉄道の運営で最も苦しい時期は、震災直後の2011年3月12日から4月1日までの休業期間。全線が不通となり、収入がゼロとなった。

震災後、三陸鉄道の運営で最も苦しい時期は、震災直後の2011年3月12日から4月1日までの休業期間。全線が不通となり、収入がゼロとなった。

3年3カ月に渡る

伝え続ける from 3.11 あなたと、生きていく。

防災市民憲章の推進の前で東日本大震災の教訓を胸に刻む佐々木遥花さん＝釜石市鵜住居町

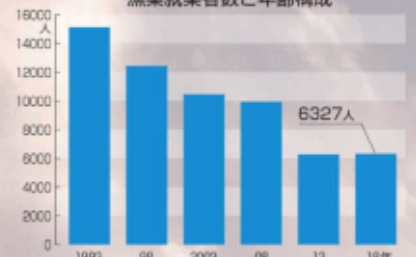
釜石高2年の佐々木遥花さんは3月下旬、首都圏の会場へ、一歩踏み出す。

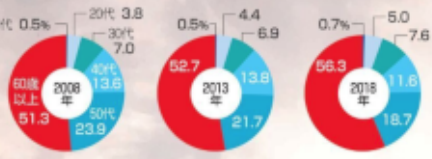
震災発生時は釜石市鵜住居町の祖母宅で小学1年生。自身には、隣接する釜石東中の生徒に手を引かれ高台に避難したという確かな記憶がある。当時5歳児で現在高校2年生という年の差。次なる大災害への備えや、実体験を伝えることができる最年少世代としてハッとした。もはや震災を「語り継ぐ」こと

データで読み解く 浜のなりわい

東日本大震災で壊滅的な打撃を受けた本県の水産業。一歩一歩、復旧を進め生産基盤は整ったが、担い手の減少に加え、秋サケやサンマ、スルメイカなど主力魚種の不漁に直面する。2020年の本県魚市場の水揚げは数量8万5166トン（10年比49.5％減）、金額148億2900万円（同38.2％減）と、いずれも震災以降最低となった。浜のなりわいの維持に向け、サケ・マス類の海面養殖やウニの蓄養の新たな取り組みも始まった。現状をデータから読み解く。

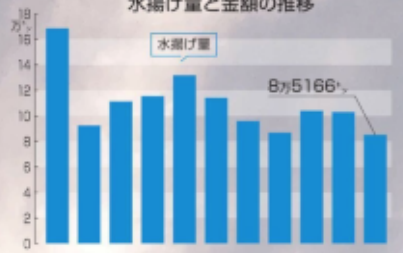
漁業就業者数と年齢構成





※漁業センサス

水揚げ量と金額の推移



※県内13魚市場の合計。県水産情報配信システム

魚市場の復旧状況

第1、第2卸売場の面積は計1万221平方㍍。第2卸売場は受電設備や海水殺菌装置を「高台」2階に移し、津波対策を図った。

既存の卸売場（4830平方㍍）の東側に、鉄骨平屋建ての卸売場（4056平方㍍）を接続する形で増設した。鮮度保持や衛生のための設備を装設した。

大型サンマ漁船に対応する新浜引魚市場を新設・魚河岸地区は「当分の間」再建し、共元定置網漁船（小型）が水揚げする。卸売場面積は合計で7458平方㍍。

新魚市場は工事中の被災を免れた旧魚市場の北側に整備された。卸売場は旧市場の2・1倍となる1万439平方㍍。衛生管理上、鮮度管理機能を備える。

※地形図は国土地理院発行電子国土基本図を基に加工。背景の色は陸域表示

新規事業に活路

本県主力魚種の秋サケの不漁が続く中、サケ・マス類の海面養殖に注目が集まり、4地区で将来の特産化に向けた取り組みが広がっている。

久慈市漁協のギンザケ養殖試験は2020年11月に最終3季目が始まり、事業化に手応え。宮古漁協のトラウトサーモンも同年11月に2季目が始まり、出荷拡大を目指す。

新おおつち漁協は日本水産（東京）などと組み、同年1月からトラウトサーモンとギンザケの養殖に着手。釜石市と岩手大は同年11月から市場価値の高いサクラマスの海面養殖に乗り出した。

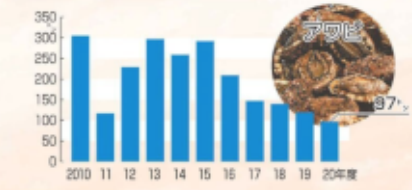
マイワシの水揚げが近年好調なことを受け、2020年10月から小型漁船による2年目の試験操業が始まった。苦境にある漁船漁業に寄与するか成果が注目されている。

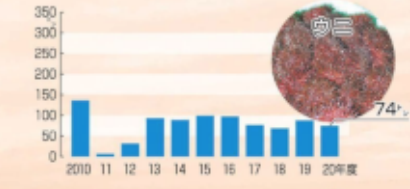
マイワシは大規模な定置網や巻き網で漁獲していたが、県は資源量の増加を受け、5㌧以上20㌧未満の小型船を対象に集魚灯を使う「火光利用敷網」と「すくい網」の2漁法を認め、採算性を中心に漁として定着できるか精査している。

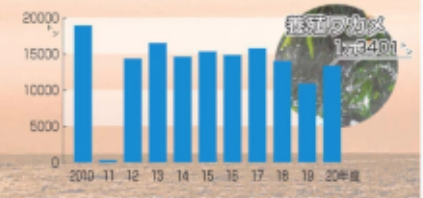
ブリやサバも近年水揚げが増加傾向で、原料不足に悩む水産加工業者からも期待の声が上がる。

磯焼け対策で間引いたウニを蓄養・出荷する実証事業が2020年12月にスタートした。移植したウニに餌を与えて身入りを回復させ、冬にも出荷する「二期作」の実現が目標で、漁場の環境改善や漁業者の所得向上につなげる。

ウニの漁期は主に6～8月だが、冬石鯛を与えると身に含むお正味が回復することに着目。県が磯焼け対策で、久慈市種市の漁協に委託した。高値が期待できる冬末の蓄養期に出荷する狙いを確立し、近年深刻化する磯焼けを食い止める観点からも期待が高まる。







※秋サケ・県漁連調べ（2020年度は12月1日末時点）、サンマ・全国さけ・ます増殖振興会調べ、スルメイカ・県水産情報配信システム、アワビ・ウニ・ワカメ・養殖ワカメ・県漁連買取実績

	震災前	被災直後	現状
漁船	1万4303隻	1765隻	1万592隻
漁港	111港	3港	99港

震災後、津波で漁船を失った漁師たちのため、共同で漁船を利用する取り組みが広がった。県は共同利用船の復旧支援対策事業として、16年3月までに6485隻分の新規登録を完了。補助事業によらない新規登録漁船と被災を免れた漁船を合わせた漁船数は1万592隻に回復した。

※数値は、震災前は2010年12月、現在は2020年12月末

from 3.11

東日本大震災 岩手10年の歩み

2011年3月11日午後2時46分。経験のない揺れ。巨大地震で引き起こされた大津波はごう音とともに押し寄せた。

岩手県の死者は関連死を含め5144人。行方不明者は1111人。それぞれに、かけがえのない人生があった。

簡単に前を向けたわけではない。それでも、たくさんの励ましを受け、復興のつち音を心の支えに、着実に歩みを進めてきた。

10年。あの日も、きょうまでの道のりも、忘れることはない。教訓を胸に刻み、亡き人たちの分まで強く優しく生きていく。

岩手県内の被害状況

	直接死	関連死	行方不明者	家屋倒壊数
陸前高田市	1,557	49	202	4,047
大船渡市	340	83	79	3,938
釜石市	888	106	152	3,656
大槌町	804	52	416	4,167
山田町	604	83	145	3,167
宮古市	420	55	94	4,005
岩泉町	7	3	0	200
田野畑村	14	3	15	270
普代村	0	0	1	0
野田村	38	1	0	479
久慈市	2	1	2	278
洋野町	0	0	0	26
内陸部	0	34	5	1,846
計	4,674	470	1,111	26,079

※21年2月28日現在。県総合防災室

2011年3月13日午前8時45分、津波襲来から3日目の大槌町中心部

▲2021年　大槌　2011年◀

高台の城山公園に三陸鉄道の警笛が届き、大槌湾に陽光がきらめく。あの日、城山から見下ろした大槌町中心部は、戦災を思わせる光景が広がっていた。役場庁舎が被災し、行政機能が一時まひしたことで、復旧復興の遅れも指摘された。中心部の町方地区は土地区画整理事業が導入され、災害公営住宅や本設再建の住家が立地。津波浸水区域外への移転も多く、活力維持を模索する。

Contents

2 3 見つめる古里の復興 大槌高生の定点撮影
4 5 データで見る被災地の今
6 伝え続ける　語り部活動
7 データで読み解く　浜のなりわい
8 年表で振り返るいわて

岩手日報社

渋谷からも、祈ります。
2021.03.11 14:46

あの日から、10年を迎えた今日、
渋谷で新たなプロジェクトをスタートします。
その名も「もしもプロジェクト」。
都市でもいつか必ずおこる「もしも」に備えて、
防災・減災にみんなで取り組んでいきます。
あの日のことを忘れないように。
そして未来につないでいくために。
今日、渋谷からも、祈りを届けます。

もしも
MOSHIMO PROJECT SHIBUYA
主催
こくみん共済
FUTURE DESIGN SHIBUYA
PLAY! DIVERSITY SHIBUYA
https://moshimo-project.jp/

いわて 振り返る10年

2011年

3月9日　午前11時45分ごろ、三陸沖を震源とする地震が発生し本県で最大震度４。大船渡で60㌢などの津波観測

3月11日　東日本大震災
午後２時46分、国内観測史上最大のM9.0の地震。震源は三陸沖。大津波が沿岸一帯を襲い、陸前高田市中心部などが壊滅した。津波の影響で東京電力福島第１原発で事故

3月19日　陸前高田市と釜石市で仮設住宅着工

4月7日　宮城県沖を震源とするM7.2の地震。震災の停電は復旧が進んでいたが、再び県内全域の約31万世帯で停電

4月9日　陸前高田市で仮設住宅入居スタート

5月2日　陸前高田・釜石両市が仮校舎となる大船渡東高管中校舎で約１カ月遅れの始業式＝写真①。全県立学校が再開

5月6日　天皇、皇后両陛下が来県。釜石市と宮古市の避難所を訪れ、被災者を励まされた

5月28日　県内の停電が全て解消

6月29日　「平泉の文化遺産」が世界遺産に登録

7月13日　県内の断水が全て解消

7月26日　自衛隊が本県での支援活動任務終了

7月28日　本県など４県で北東北インターハイ開幕

8月11日　県内の仮設住宅１万3984戸が全て完成

8月31日　県内の公共施設や宿泊施設に設置されていた避難所が、山田町の４カ所を最後に全て解消

9月11日　震災後初の知事選、県議選投開票。達増拓也氏が再選

11月2日　本県がれきの広域処理スタート。宮古市から東京都への搬出開始

2012年

2月10日　国が復興庁設置。盛岡市に岩手復興局、宮古市と釜石市に支所開設

3月8日　宮古市の金浜海岸で県内初の防潮堤復旧工事に着手

3月11日　震災から１年。陸前高田市で県と市の合同追悼式

3月17日　ＪＲ八戸線が全線で運転再開

5月26日　盛岡市で「東北六魂祭」開催

6月14日　釜石市の平田地区で県内初の災害公営住宅着工

12月7日　三陸沖を震源とするM7.3の地震。大船渡、久慈港で20㌢の津波観測

12月10日　大船渡市の盛中央団地で県内初の災害公営住宅入居開始

12月16日　衆院選投開票が行われ、自民、公明が３年３カ月ぶりに政権返り咲き

2013年

3月2日　ＪＲ大船渡線気仙沼―盛間でバス高速輸送システム（ＢＲＴ）の運行開始

3月11日　震災から２年。大槌町で県と町の合同追悼式

4月1日　NHK連続テレビ小説「あまちゃん」放送開始

7月3日　陸前高田市の「奇跡の一本松」の復元完成式＝写真②。津波に耐えたがその後、枯死状態に。市は高田松原で唯一残った松を、震災を後世に伝えるモニュメントとして保存を決め、12年９月に伐採、保存作業を進めてきた

7月4日　天皇、皇后両陛下が来県

7月21日　参院選投開票。岩手選挙区は平野達男元復興相が３選

7月24日　岩手国体の16年開催を日本体協が正式決定

8月9日　県央部を中心に記録的豪雨被害。雫石町や矢巾町で降り始めからの総雨量が200㍉を超える

8月23日　北上山地（北上高地）が国際リニアコライダー（ＩＬＣ）の国内候補地に決定

9月24日　「三陸ジオパーク」が日本ジオパーク認定

11月29日　復興庁、宮古市の「たろう観光ホテル」の震災遺構保存に初めての国費投入を表明

2014年

2月4日　山田町が緊急雇用創出事業を委託したNPO法人代表理事らが業務上横領容疑で逮捕

3月11日　震災から３年。山田町で県と町の合同追悼式

3月24日　陸前高田市で土砂搬出用のベルトコンベヤー運転開始。高台造成の土砂、15年９月まで500万立方㍍の土砂を搬出

3月31日　本県の震災発生がれきの処理終了

4月1日　ＪＲ岩泉線廃止

4月5日　船越小（山田町）が新校舎で授業。被災した校舎の移転新築は被災３県で初めて

4月6日　三陸鉄道が全線復旧。北リアス線田野畑―小本間（10.5㌔）の運行を再開＝写真③。前日の南リアス線釜石―吉浜間（15㌔）と合わせ、南北リアス線全107.6㌔が完全復活した

4月12日　ＪＲ釜石線花巻―釜石間で「ＳＬ銀河」の営業運転開始

8月24日　宮古盛岡横断道路の平津戸松草道路（７㌔）と区界道路（８㌔）が着工し、県内全ての復興道路が工事に入った

2015年

2月17日　三陸沖を震源とするM6.9の地震。久慈港で20㌢、宮古で10㌢の津波観測

3月11日　震災から４年。野田村で県と村の合同追悼式

4月7日　小中一貫教育校となった大槌町の吉里吉里学園で初の入学式

5月6日　高田高の新校舎落成記念式典

7月5日　釜石市の橋野鉄鉱山を含む「明治日本の産業革命遺産」が世界遺産に登録

12月25日　ＪＲ大船渡線の鉄路復旧を断念、バス高速輸送システム（ＢＲＴ）の継続正式決定

①

②

③

④

⑤

2016年

1月27日　「完全国体」の希望郷いわて国体が幕開け。先陣を切ってスケート・アイスホッケー競技会が開幕。男女総合成績（天皇杯）は８位

2月20日　本県でスキー国体。県勢は２種目優勝。天皇杯４位で秋の本大会につなぐ

3月11日　震災から５年。大船渡市で県と市の合同追悼式

3月21日　高校野球の第88回選抜大会で釜石高が甲子園初勝利。
小豆島（香川）に２―１で競り勝つ

8月30日　観測史上初、東北地方の太平洋側に上陸した台風10号による豪雨。岩泉町内の高齢者施設などが浸水、関連死含む27人が死亡、１人が行方不明になった

9月26日　岩手国体総合開会式出席のため、天皇、皇后両陛下が来県

10月1日　岩手国体開幕＝写真④。11日まで県内24市町村で36正式競技と特別競技の高校野球が行われた。県勢は優勝16種目を含め入賞173種目。県勢は天皇杯、皇后杯（女子総合成績）とも２位と、被災地に勇気と感動をもたらした

11月22日　福島沖を震源とするM7.4の地震。久慈港で80㌢など県内４カ所で津波観測

2017年

3月11日　震災から６年。釜石市で県と市の合同追悼式

4月27日　陸前高田市でアバッセたかた開業

4月29日　大船渡市でキャッセン開業

5月8日　釜石・尾崎半島で約413㌶を焼く大規模山林火災

5月27日　陸前高田・高田松原の再生に向けて、初の本植栽スタート

9月23日　釜石港で大型荷役機械ガントリークレーン稼働。本県港湾物流の拠点へ

11月19日　三陸道山田―宮古南（14㌔）が開通。震災後に事業着手した復興道路・復興支援道路で初めて

2018年

3月11日　震災から７年。宮古市で県と市の合同追悼式

6月10日　大槌町の交流施設「おしゃっち」開館

6月22日　宮古市と北海道室蘭市を結ぶ本県初の定期フェリー就航。
20年３月末に運行休止

7月3日　釜石市・鵜住居防災センター訴訟で和解。市が同センターでの多数の犠牲に対する行政責任を認めて謝罪

7月末　19年ラグビーワールドカップ（W杯）の会場となる釜石市の釜石鵜住居復興スタジアム完成

10月1日　宮古駅南側にイーストピアみやこ開所。市役所本庁舎と市民交流センター、保健センターを一体整備

11月29日　大船渡「吉浜のスネカ」など８県10件の行事で構成する「来訪神　仮面・仮装の神々」がユネスコの無形文化遺産登録

2019年

1月18日　陸前高田市・気仙小が高台移転。県内被災公立校の再建完了

3月2日　大槌町役場旧庁舎の解体完了

3月9日　釜石ジャンクション―釜石仙人峠間が開通、釜石道が全線つながる

3月11日　震災から８年。久慈市で県と市の合同追悼式

3月23日　ＪＲ山田線釜石―宮古間（55.4㌔）が三陸鉄道へ移管、大船渡・盛―久慈間（163㌔）が「リアス線」として全線開通。全国最長の第三セクター鉄道となった

9月22日　陸前高田市の高田松原津波復興祈念公園内に、東日本大震災津波伝承館と国営追悼・祈念施設がオープン

9月25日　ラグビーW杯、釜石市でウルグアイ―フィジー戦＝写真⑤。
震災津波の被災地で唯一の開催地。釜石鵜住居復興スタジアムで１次リーグD組の１試合が行われ、ウルグアイがフィジーに39―27で競り勝った。世界レベルの熱戦を国内に発信、会場を埋めた観客約１万４千人を沸かせた。
県内各地でパブリックビューイングが展開された

9月29日　大槌町・吉里吉里学園中学部の仮設住宅3棟去完了。
県内の学校用地の仮設が解消

10月13日　台風19号襲来。道路寸断で集落も孤立し、釜石市で予定されたラグビーW杯ナミビア―カナダ戦中止

10月17日　プロ野球ドラフト会議で、大船渡高の佐々木朗希投手がロッテから１位指名

10月31日　大槌町赤浜の災害公営住宅７戸完成。沿岸部の全5550戸の整備完了

2020年

3月11日　震災から９年。釜石市で県と市の合同追悼式。新型コロナウイルスの影響で行事の中止、縮小相次ぐ

4月16日　新型コロナに対応する緊急事態宣言が全都道府県に拡大

5月18日　三陸鉄道の新駅「新田老駅」が開業、駅とつながる宮古市田老総合事務所も開所

12月5日　宮古盛岡横断道路の区界道路（８㌔）開通。21年３月末までに全線開通予定

12月7日　県内最後となる盛岡市の災害公営住宅99戸完成。全5833戸の整備が完了

2021年

1月11日　宮古市の浄土ケ浜遊覧船最終運航

1月25日　津波で観光船はまゆりが乗り上げた大槌町の旧民宿の解体工事始まる

3月11日　東日本大震災から10年。陸前高田市で県と市の合同追悼式

from 3.11 あなたと、生きていく。

岩手日報 デジタル版

申し込み月内は無料

過去30日分の紙面を閲覧可能

岩手日報 デジタル版 検索

お申し込みはこちら！

当日の紙面は毎朝5時に配信

おくやみは前日18時以降に公開

本紙ご購読の方
併読・月額
+500円（税込み）

配達エリア外の方
デジタル版だけの契約ができます
月額3900円（税込み）

岩手日報社　総合メディア局 デジタル戦略部　TEL 019（653）5611（平日9時～17時）

特別報道記録集
三陸再興
いわて震災10年の歩み

写真と年表で振り返る保存版

東日本大震災10年を写真と年表で振り返る保存版。岩手日報本紙に掲載された写真から約600枚をピックアップした。
沿岸12市町村ごとの写真特集では、被害が特に大きかった地域を中心に「新・いわてMAP」（2006年発行、絶版）の地図を転載。復興へと進む街並みの写真とともに収録した。
年表はインフラや産業関係はもちろん、学校や祭りなど地域の動きも多数取り上げた。

【主な内容】
■写真でたどる12市町村
■年表 2011-2021
■碑の記憶 いわて震災遺構
奇跡の一本松
吉浜の津波石 など

定価1,760円（本体1,600円＋税）
A4横148ページ オールカラー

岩手日報社 TEL 019-601-4646（平日9～17時）
twitter［岩手日報社の本］@iwatenp_book

おおめは書店、岩手日報販売センター、岩手日報社コンテンツ事業部へ。
WEBサイトからも可能。
岩手日報の書籍案内WEBサイト▶https://books.iwate-np.co.jp/